

館山移住かわら版 創刊号

田舎のあんちゃん達が発信する 南房総・館山の移住情報誌の誕生

都心から約100キロ、キレイな青い海と緑豊かな山々に囲まれたリゾート地の館山。近くにあるのにあまり知られていない我がまち「館山」の魅力を、我々館山商工会議所青年部が地元住民の目線から、移住や2拠点居住を将来的に考えている皆様に新鮮な生の情報をお届けしたい!と企画したこの「館山移住かわら版」少しでも皆様の「セカンドライフ・2拠点居住」計画の参考になれば・・・と今回ようやく創刊にこぎつきました。

「館山」って?」



南国ムード漂う初夏の平砂浦の風景

春になると、旅行雑誌やテレビなどでよく房総が取り上げられています。必ずついていい言葉は暖かいや温暖な言葉です。確かに年

間平均気温が約16度という恵まれた温暖な気候、春には色とりどりの花が街を彩り、延べ約30kmにも及ぶ海岸線や、さんごやウミホタル、熱帯魚が生息する青い海、心地よい太陽の光、まだまだ未開発地の多い豊かな自然があり、そこに癒しを求めて移住してこられる方や、別荘を購入して2拠点居住される方々が昔からたくさんいます。館山ってどうよ?と取引先のメーカー営業マンからよく聞かれます。一昔前は、交通も不便で夏の観光シーズンには道路は大渋滞なんてこともありましたが、この夏に念願の富津館山道路と東関道館山線が直結され、東京から約95分、ある程度渋滞の緩和も図れるのではないかと。また、大規模ショッピングセンターも次々とオープンし、新鮮な食材や家電製品等



館山・北条海岸の長い海岸線

も都内と同じように手に入るし生活には何も不自由はないです。でも、せつかく田舎でのスローライフ、都会にはない「地元風情」を味わいたい!それなら

地元の商店街や、専門店などで店主とおしゃべりしながらノンビリお買い物なんてことも可能ですし(笑) 中心部に近代的な建物が建ってきて、やっぱり館山の売りは何と云っても「そのまんま残っている自然」じゃないかなあ・・・? 小さい頃からよく遊んで、今もコンクリートの堤防の脇で必死に頑張っている北条橋、ボロボロになりながらもキッチン存在感を誇っていますよ! いずれ館山にも観光桟橋が完成して、伊豆や大島なんかに定期観光便とかも就航する計画もあるよっただけで、地元民としてみたらやっぱり思い出は極力残して欲しいなあってのが本音ですよ。

移住者インタビュー

館山にすでに移住されて、実際に生活されている先移住者の方々に、我々館山商工会議所青年部のメンバーが実際にお会いして色々とお話しをお伺いしました。ここでは、そのお話しをご紹介します。

「私が館山を選んだわけ」

移住者が語る

まずは、すでに移住されたY氏(正木岡在住64歳)のお話を・・・
『なぜ館山を選んだかというところ、定年後どこか住みやすい場所はないか?とインターネット・新聞等で色々調べていました。病氣療養中の妻が「海の近くに住みたい」という希望もあり、ある新聞で目に止まった館山を妻と車で訪れてみることにしました。トンネルを抜けると、大きなヤシの木が道路沿いに並ぶ南国風の景色にまず心を動かされました。早速目に付いた不動産屋(我が青年部員ひらの宅建さん)に飛び込み情報を収集したところ、条件にあった土地を紹介してもらい、気候が温暖で釣りが趣味の私には周りが海に囲まれていて最高の場所!それに伊豆に比べ地震も少なく、土地の価格も比較的安価、しかも東京からのアクセスも最



環境といふことでこの館山に決めました。実際に住んでみて、冬場の西風には驚かされましたが、近所さんとも親しくさせて

て頂き、市の医療体制もしっかりとしているので安心できます。ひとつ不便だな・・・と思うことは、道幅や駐車スペースが比較的狭く、大きな乗用車だと不便に感じることがありましたので館山に来て1台軽自動車を購入しました。今は楽しく生活を送っております。Y氏のお話でも出てきましたが、確かに有料道路を降りてバイパスの館山トンネルを抜けると、そこからはヤシの木と季節の花々が道路を飾っていて(上の写真参照)いかに「リゾート地に来たぞ!」という気分がさせてくれます。私が東京で働いていた頃はまだバイパスもなく、海岸通りを頑張って帰っていたんですが、みなと川の橋あたりから北条海岸のきれいな景色が見えたときに「帰ってきたぞ! やっぱ館山最高」と感じたものです。(笑) 今回お話を聞いたY氏は、移住成功例ですが、必ずしも「良かった!」と思う方達だけではないと思います。これからこの「館山移住かわら版」を作成していくにあたり、失敗談等も取材し記載していきたいと思っております。ぜひとも参考にさせていただければと思います。

「浅野さんの館山移住ライフ」

知らない土地への不安もある。田舎暮らしに対するマイナス面も知っている。でも、それを差し引いても子供を田舎で育てる価値は充分にある。

「子供たちにかえるべき故郷を」これが浅野さんご夫妻の決断。

お子さんの成長にしたいが、そろそろ仕事を考える時期にきていた。

田舎暮らしを始めてからすでに数年が経過していた。実際、山梨の農村も下見にいったこともあったのだが、なにかピンと来なかった。

奥様が熊本出身ということから熊本も考えたが東京には浅野家を囲む大事な仲間があり、いったり来たりとの関係はできれば続けたい。熊本では遠すぎるなあ・・・。

そんな思いからいつと気にかかったのがご主人のお父様の生まれ地南房総だった。海がある、山がある、東京へも近い、そっ



南房総がいいなあ・・・。人脈や、インターネットそして足で探して決めた場所は鴨川だった。

仕事もすんなり見つかり順調・・・と思われるが、がしかし・・・。

鴨川はすっきりした良い町だ。亀田総合病院もあり医療も安心できる。しかし何か違う、



移住が具体的になるにつれて、その思いが強くなってきた。生活の匂いがしない、鴨川はリゾート地として確立された場所であり、浅野家が目指した田舎ではなかった。もう一度しきり直そう。

このままでは時間ばかりたってしまう、来年は娘さんも小学校へ入学だし・・・

2007年7月5日浅野さんは会社に辞表を提出、7月7日館山へ家族で向かった。目指すは「安西農園」だった。

農業にたいしての憧れではなく、「尊敬」を強くもっていたご主人は「農業に携わる背中を見せて子供を育てたい」と思っていた。

インターネットで検索した観光トウモロコシ狩りを運営する安西農園の記事から感じる

「なにか」があったと浅野さんご夫妻は言う。「子供達にトウモロコシ狩りをさせたくて」

という、言葉で出向いた安西農園で、「実はこの地域に移住を考えているんだけど・・・」と口火を切ってみた。

安西農園の安西淳さんはご夫妻と同世代、畑で働く彼のまわりを浅野家の子供達と同じような年頃の子供達かはしゃき回っていた。真つ黒な日焼け顔に真つ白な歯をみせ豪快に笑う彼はその話を聞き一発！

「だあいしょぶですよー！」とこれまた豪快。奥さんはこの一発で館山が良いかもしれない・・・と思った。

安西さんの人脈から農業法人への紹介も受け一気に移住へ事が運んだ。

現在（8月28日）就職先も決定した。格安で見つけた借家を改装中。

「こんな家ていいの？」と築45年の家を大家さんは気が引けている様子だが、「この梁が見えているこの辺がたまりやすいよねえ！」

「この床は何色にする？」木の家っていいよねえ、土壁だよ、ほら」と満悦

改装、引越、保育園の手続き。準備は山積している。まだまだ東京の住まいの片付けも進まない。館山、東京の往復に疲労感を隠せない浅野家のみなさんだが、館山に移住するときのきも隠せない。

浅野家が七夕の日に出会った安西農園の真上には東京ではまず見る事のできないそれは、それは美しい天の川が見える事をまだ浅野さんたちは知らない。早くおしえてあげたいなあ。

「この家族にとってこの移住が本当に幸せなものになるように心から祈るとともに」「近所さんとしてお手伝いして差し上げたいとおせっかい心」に火が灯る富崎在住移住おせっかい隊員 八代健止がレポートしました。

館山への移住応援サイト近日常見！
館山商工会議所青年部移住お手伝いネットワーク「おせっかい」が運営するHP
「館山へ移住ドットコム」
近日常見！HPで検索！

館山マメ知識くその①、駅前シシボ

館山駅東口ロータリーにある大きなヤシの木、おっ、南国にきたやっ！と「思わずせう、長年館山を見守っているこのヤシの木は一体いつから立っているんでしょっつちよっつと調べてみました。このヤシの木は、アフリカのカナリー諸島原産のカナリーヤシで、昭和16年、今の房南中学校付近に館山海軍砲術学校ができた時、市民から寄贈されたそうです。その後、昭和22年に駅前ロータリーが造られた時、砲術学校から移植されたそうです。館山のシンボルにふさわしいこの大きなヤシの木は、すつと館山を見守っています。



館山駅東口ロータリーのヤシの木

青い空と海・・・
緑の山々・・・
館山に住んでみませんか？

館山商工会議所青年部創立50周年記念事業
定住・二拠点居住お手伝いサイト
館山へ移住.com
<http://www.tateyamaheijyu.com/>